

## 大正5年に始まった商工

高田商業高校は、大正5年に新潟県高田市立高田商工学校として創立された。初代校長には高田市長の倉石源造氏が就任された。創立時は、乙種（入学資格は12歳以上。尋常小学校6年修了程度で修業年限は3年以内の学校）の商工学校で商科、工科（家具、建築、漆工）が置かれた。初年度の生徒数は124名で、商科1年54名、2年30名、3年12名、家具科15名、漆工科23名。その年の9月には、早くも学友会（現生徒会）がスタートし、翌年には「学友会雑誌」（生徒会誌「六華」の前身？）が発行されている。

## 創立当初は木造校舎

最初の校舎として、旧高田市立図書館があった場所（大手町にある榊神社向かいの堀端のあたり）にあった建物が使われた。校舎は木造2階建てで、廊下と教室の間の間仕切りは障子だったと紹介されており、歴史を感じさせる。そこから、大正11年に高田市南城町3丁目（現在の高田南城高校の場所）に新校舎を建て移転し、さらに、昭和47年に現在の場所に移転することになる。

最初の制服は、筒袖、はかまおよび制帽というきまりであった。大正10年には、甲種（5年制）への昇格に伴い、和服から洋服になっている。

## 昔も盛ん 部活動

昔の高商生も、部活動や学友会（生徒会）活動にも熱心であったようだ。大正10年の頃には既に、スキー部や野球部、庭球部、柔剣道部があった。昭和の初めの学友会は、文芸部（弁論・会誌・研究）、運動部（野球・庭球・武道・競技・スキー・水泳・角力・応援）、総務部（会計・研究）で構成されていた。中でも隣接していた高田中学（現高田高校）とはすべてにおいて良きライバルであり、野球の定期試合ではファンを二分し、高田の早慶戦と言われていたほどの人気であった。

## 最大行事「展覧会」

六華祭の前身である「展覧会」は大正6年から始まった。生徒の作ったものや仕入れた商品を販売し、大盛況だったという。大正11年には運動会が始まった。今では恒例となっている修学旅行は、大正8年に始まり、第1回目は東京へ4泊5日のスケジュールで実施された。その他、変わった行事としては、兎狩りが大正9年に始まった。大正10年には雪中マラソンも行われた。

## 厳しかった進級制度

留年は当時は珍しいことではなかったそうだが。工科では、10人中進級者わずか2人という年もあるほどに進級制度は厳しいものであった。こうしたなかで、本校の生徒達は、学力を向上させ育っていった。

## 今に歌い継がれる校歌

現在私たちが歌っている校歌は、昭和4年4月に制定された。戦後、工業の分離や時代の変遷によって若干修正され、今の校歌になった。 (金子・長澤)

(参考資料 『鮫城健児の歩み』(高田商業同窓会)『上越市史』)